

真言院 寺 報

平成 28 年 3 月号



＜発行元＞ 金胎山 真言院
北海道虻田郡真狩村字真狩 102 番地
(T E L) 0136-45-2644
(F A X) 0136-45-3035
(メールアドレス) myosho@shingon-in.jp
(ホームページ) <http://www.shingon-in.jp>



「これ知ってる??」

御朱印ってご存知ですか？お寺や神社などをお参りした際、その証として寺院名やご本尊さまの名前を記帳してもらえるものです。

真言院でも御朱印を授与することができますし、かわいい御朱印帳も各種入荷しました。

御朱印は 300 円、御朱印帳は 1 冊 1500 円です。
ご希望の方は、お寺に来た際にお声掛けください。



←真言院の御朱印
北海道十三仏靈場
第九番札所本尊
「勢至菩薩」
の御朱印です。

御朱印帳は
現在 8 種類
あります。



念珠(数珠)のことならご相談ください

中糸が切れてしまった念珠、房が傷んでしまった念珠は二千円～四千円ほどで修理することができます。また、新品の念珠もお寺で取り扱っていますし、カタログから好きな色の珠と房を選びオーダーメイドで作ることもできます。最近は安価な念珠もありますが、ぜひいいものを長く使ってほしいものです。

法要案内

3月 20 日 (日) 午後 1 時より

宗祖弘法大師 正御影供法要

を勤修いたします。

正午より 昼食のご接待

婦人部手作りの美味しい昼食をご用意
しております。

午後 1 時より 本堂にてお勤め

午後 2 時より 講話 & 健康体操

健康運動指導師 岸本 和歌さん
体が元気になるエクササイズを行います。
お楽しみに！



※「志納袋」を同封させていただきました。
法要やお彼岸参りの際に、本尊様へのお供え
として、お志をお納め下さい。

※ 塔婆供養 (一供養 五百円)
受付いたします。



だいごまくきとうえ 節分大護摩供祈祷会を行いました

2月1日、毎年恒例の節分大護摩供祈祷会法要を行いました。今年は平日だったにも関わらず、たくさんの方にお参りいただき、盛大な法要となりました。

護摩とは真言密教に伝わる火を使った祈祷です。本尊のお不動さま（不動明王）の前に壇を設け、火を焚き、様々な供物を投じて供養します。真言院では、檀信徒の皆さんのがんの願い事を「護摩木」という木札



に書き込み、それをひとつひとつ読み上げ炉に投じて祈願しています。今年も護摩の大きな炎を目の前に、皆さんの願い事を本尊様に祈願いたしました。今年も皆さんにたくさんの福が訪れますように。

そして、住職が護摩供養をしている間、その後ろではお参りの皆さんで大きな数珠を回す「大念珠まわし」をしていただきました。本堂いっぱいに参拝の皆さんのがぐるりと円陣を組み、大念珠を手に持ち隣の人に送っていきます。お経に合わせて叩かれる太鼓の音、ジャラジャラと大念珠を繰る音、びっくりして泣き出しちゃった赤ちゃんの声、ワイワイガヤガヤと楽しそうな皆さんのが…。毎年とても賑やかで楽しそうです。

そして最後は皆さんお楽しみの豆まきです。大豆に落花生に、お菓子にパンやみかんなど。参拝の方がお

供えくださるものも年々増え、真言院の豆まきは毎年豪華になっている気がします。たくさんの福をそれぞれの懐に詰め込み、皆さんの笑顔をもって今年の法要も無事に終えることができました。また来年、皆さんのがんの願い事と大念珠まわしの様子



(写真上・右)
大念珠まわし
の様子

洞爺湖温泉にて親睦会を行いました

2月26日、洞爺湖万世閣にて真狩・留寿都の檀信徒の皆さんと毎年恒例の親睦会を行いました。今年は例年に比べ参加人数が少なめでしたが、皆さんそれぞれ温泉でゆったりくつろいだり、カラオケで盛り上がったりと楽しんできました。



尼僧のねたし

「お葬式って大切」

先日、高校時代の友人から数年ぶりにメールがきました。「友達が亡くなったことをあとから知ったが、自宅にお参りに行くことも、お花やお供え物などを送ることもすべて断られてしまった。亡くなった友達になにかしたいのだけれど、できることはないのだろうか。」という内容でした。

そして偶然にもその翌日、別の友人から「大学時代の友達が交通事故で死んじゃった…。」という電話がきました。その友人といろいろと話した中で私の心に響いたのは「葬儀に行って良かった。連絡をもらったときはただ辛くて頭も混乱したけど、葬儀に足を運んで、少しでも友達のためになにかができたと思ったことは救いになった。」という言葉でした。前の日に、葬儀に行けず故人への気持ちを伝える術を見つけられずに悩んでいたもう一人の友人の話を聞いていたから、余計に印象に残ったのかもしれません。私が携わらせていただいている「葬儀」というものは生きている人にとっても意味のあることなのだと自信を持つことができました。

最近は家族葬という葬儀の形が増えています。東京では通夜や葬儀は行わず火葬場の炉の前で15分ほどのお経をあげるだけの「直葬」も少なくないそうです。どんどん簡略化していく現代の葬儀ですが、故人とお別れをしたり気持ちの整理をしたりするのにやはり葬儀は大事だと思います。故人が生前お世話になった人たちと最後に会える葬儀は、遺族が故人のためにできる最後で最大のプレゼントのように思いますし、「私もこんなふうに送ってもらえるように生きなきゃな」と思える素晴らしい葬儀にもたくさん出会わせていただきました。葬儀は亡くなった人、遺された人双方にとって大切な時間と感じています。